

2 学期終業式 式辞

令和 5 年12月22日

みなさん、おはようございます。今年も、残すところ1週間あまりとなりました。年末の大変慌ただしい時期ではありますが、この1年を振り返り、次の目標を考える絶好の機会だと思います。

この2学期、みなさんはどのように過ごしましたか？興味・関心のあることを仲間と共に探究し、語り合いお互いを高め合うことができましたか？

今年の2学期は、昨年までとは違い、文化祭、体育祭といった大きな行事を制限なく実施できました。全校生徒が体育館に集まって実施できた北稜祭、しかも2日間、最後にはサプライズがありましたね。体育祭も3学年そろって、学年を越えた色別対抗でした。どちらも、コロナ禍以前と同じではなく、コロナ禍を経て、前と同じが良いことと改善すべきことを見極め、みなさんの創る新しいものを見せてくれたと思っています。本当に、みなさんの素晴らしい力を見せていただきましたし、これからどんな力を見せてくれるのだろうとワクワクしました。ここにとどまることなく、次はもっともっと創造性を発揮し、奈良北高校の、みなさんのオリジナルのものを作り上げてくれることを期待しています。

さて、数日前の新聞に、「チャット GPT 教室に進出」という記事と、「発掘 20 年 ついに手がかり」という記事がありました。前者は、チャット GPT など生成 AI の教育現場での使い方についての模索、後者は地道な発掘作業を続けた結果、初代ローマ皇帝の別荘の手がかりにたどり着いたという内容です。時代の最先端に行く人工知能と発掘、全く違うように見えるのですが、きっとこの原動力は、好奇心と不思議の解明だと思います。

「不思議だと思うこと、これが科学の芽です。よく観察してたしかめ、そして考えること、これが科学の茎です。そうして最後になぞが解ける、これが科学の花です。」

ノーベル物理学賞受賞者の朝永 振一郎（ともなが しんいちろう）氏の言葉です。

日常の中には、不思議がたくさんあります。その不思議の中に成長や進化の芽がある。当たり前になっていることに大きな不思議は見つからないかもしれないけれど、それを深く追求していくことで、不思議に出会うことがあるかもしれません。不思議に出会ったときに、ただの不思議なことで終わらせず、不思議を感じた原因を解明することで、次の不思議が生まれてくる。不思議を数多く感じていくには、結果がわかっていることだけをやっていたのでは、新たな領域には踏み込めません。昨日までにとどまらず、常に昨日を超えるチャレンジを今日からしていくことが大切だということではないかと思っています。

そして、みなさんには、「これと思うこと」、「やりたいこと」、「好きなこと」に取り組んでもらいたいと思います。そんなこと言われてもと思う人もいるかもしれません。大丈夫です。不思議を見つけて、自分のできることを積み重ね、視野を広げることで、今までとは違う世界や価値観を発見したり作ったりできるでしょう。「やりたいこと」が見つかっている人も見つかっていない人も「ものは見方によって変わる」ということを意識して一歩一歩しっかり進んでほしいと思います。

この年末年始、しっかりと自分を見つめ、将来について家族と話し合う機会としてください。そして是非、令和6年にチャレンジすることを考えてみてほしいと思います。

また、3年生はこれからが正念場です。進路実現に向け、焦らず諦めず、自分を信じて頑張ってください。既に進路が決まっている人は、それがゴールではありません。卒業後の自分のため、最良の自分を目指すとともに、今、頑張っている友を応援してほしいと思います。

3学期の始業式、新しい年に、新しい目標に向かって輝いているみなさんの姿を期待して2学期終業式の式辞といたします。